

文庫・新書につづく  
第3のシリーズ! DL判(160×110%)

# 同時代ライブラリー

第1回・21冊発売

- |                   |   |            |
|-------------------|---|------------|
| ■大江健三郎            | M/Tと森の物語<br>フシギの物語  | 定価<br>950円 |
| ■水上勉              | 破鞋 <small>（はあ）</small><br>鏡 <small>（は）</small> のなかの鏡 <small>（は）</small> | 650円       |
| ■M.エンデ<br>石浜勝也訳   | 東京物語考   | 850円       |
| ■古井由吉             | 六甲山房記   | 700円       |
| ■陳舜臣              | 無援の抒情   | 720円       |
| ■道浦母都子            | 非国民!?   | 780円       |
| ■鎌田慧              | 臨床に吹く風  | 750円       |
| ■徳永進              | ビートルズを知らなかった紅衛兵   | 700円       |
| ■唐亜明              | シャドウ・ワーク<br>—生活のあり方を問う—   | 920円       |
| ■イリイチ<br>五野井重郎訳   | ゆたかな社会  | 820円       |
| ■ガルブレイス<br>鈴木哲太郎訳 | 蝦蟇 <small>（がま）</small> の油<br>—自伝のようなもの—                                 | 980円       |
| ■黒澤明              | レインわが半生<br>—精神医学への道—  | 880円       |
| ■R.ドレイ<br>中村保男訳   | 評伝 緒方竹虎<br>—運動の昭和を生きた保守政治家—   | 820円       |
| ■国三好徹             | 近代日本の政治家  | 800円       |
| ■岡義武              | 無文字社会の歴史<br>—西アフリカ・モザンビークの事例を中心に—                                       | 850円       |
| ■川田順造             | 猫の大虐殺   | 850円       |
| ■ターントン<br>高保・廣見訳  | 明治の東京計画   | 850円       |
| ■藤森照信             | 街並みの美学  | 850円       |
| ■戸原義徳             | 都市ヴェネツィア<br>—歴史紀行—  | 980円       |
| ■フローデル<br>岩崎力訳    | 活辯時代<br>—ポスターで見る映画の誕生—  | 750円       |
| ■御園京平<br>武田武彦訳    |   | 1200円      |
|                   |   | 1100円      |



岩波書店  
東京千代田一ツ橋  
(定価は消費税込)

だが、その試みは、著者が科学性をどこまでも貫き、意図的・イデオ

ロギーの態度を徹底的に排除したところに立ち、確信をもって言える範圍のことに禁欲したところに、それはそれとして価値あるものの、立論の展開として若干迫力にかけるところがある。著者自身、「今ふりかえればその関心もいくつかの重要な点に及ばなかった」と述懐している。この述懐なきものとして仕上げられていたら、海外諸企業の将来にとっても、はかり知れない貢献となったであろう。

だが、著者のさわやかで溢れる人間愛と、確信のもてる調査範囲以上のことは絶対に言うまいとする科学者の良心の発露は、十分に読者をうつ。日本の企業社会を労務視点から把えた優れた数篇が補われたことによって、日本の経営の明暗を明らかに

「民主主義的中央集権制」を問い直す  
昨年後半以降の東欧・ソ連の政治的激動の中で、「現存社会主義」の根本的な問い直しが進行中である。この問い直しの重要な、ある意味では中核的な問題の一つが、これら諸国で政権を独占してきた共産党の組織のあり方、より端的には「民主主義的中央集権制」という名前の組織

かとう つつろう 一九四七年生まれ。東京大学法学部卒業。現在、一橋大学社会学部助教授。  
ふじい いっこう 一九三三年生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒業。一橋大学大学院博士課程修了。現在、富山大学教授。

人間愛と科学性

## 人間愛と科学性

この日本の経営がヨーロッパ(イギリス・ドイツ)でどのように適用され受容されているか。そしてアジア日系企業(韓国・タイ)ではどうか。その実態を著者は調査報告する。そのとき、著者は入手し把握したかぎりの資料を提示分析し、それぞれの風土において適用・受容されている態様を客観的に描く。そして、海外の日系企業の状況から、日本の経営を逆照射しようとしている。

## 「民主主義的中央集権制」を問い直す

評者 ● 田口 富久治 (名古屋大学教授)  
加藤 哲郎著  
『社会主義と組織原理』  
藤井 一行著  
『共産党組織のペレストロイカ』



各2050円(税込み)

原則の是非の問題である。

ここでとりあげる二冊の本は、この問題についてほぼ共通の問題意識をもちながら、それぞれ別のアプローチで迫っている。

加藤氏の労作は、社会主義(政党)の組織原理の検討の射程を、一九世紀ヨーロッパ社会主義運動にまで遡及し、さまざまな運動や政党の組織類型を史実に基づいて検討・抽出することによって、社会主義運動の歴史の展開を、「民主主義的中央集権制」の単線的形成過程としてえ

がく通説、「神話」を論駁し、「社会主義」と「民主主義」が真に結びつくような組織原理を探究したものである。本書では一八三〇年代から八〇年代までに対象が限定されており、二〇世紀のロシア起源の「民主主義的中央集権制」の本格的検討は続巻に譲られているが、本書のメリットおよび注目すべき問題提起はつぎの二点である。

①この時期における社会主義運動の組織類型が、オーエンの「友愛的平等」型、フランクの「陰謀的集権」型、共産主義同盟における「集権的平等」型、ドイツ労働者政党内における「契約的分権」型の四つの基

本型に整理されたこと。これは社会主義運動組織を対象とした政党社会学の考察としては、国際的にも独創的な試みであるといつてよい。

②そして加藤氏は、この第四の「契約的分権」型を、一九世紀社会主義運動のひとつの到達点をなすもの(そして今日でもなお多大の示唆を与えるもの)として評価していることである。

これに対して、藤井氏の本は、氏の前著『民主集中制と党内民主主義』(青木書店)の姉妹編として、「民主主義的中央集権制」の原則についての、最近のソ連における見直しの動向を丹念に追跡・紹介・批判するとともに(Ⅰ、Ⅲ)、それとも関連して、最近のソ連の学界などにおける党史の見直しについても、紹介・検討を加えたものである。

### トロツキー再評価

この問題についての藤井氏の問題意識は、レーニン時代の「民主主義的中央集権制」(ただし、それがなかに意味するかの明文の規定がなかった)が、大ざっぱにスターリン時代の「官僚主義的中央集権制」にいかにか転化していったのか、より具体的に

には、スターリン時代のこの原則についての四項目なるものにおいて、レーニン時代のこの原則についての不文律がいかに空洞化され、歪曲されていったか、そして歪曲・変質させられたこの原則が、現在にいたるまでコミンテルン型の共産党の組織態様をいかに規定し続けているか、というものである。この観点からの本章のⅡ「一枚岩主義との訣別——決議『党の統一』をめぐる」は貴重な労作である。

またソ連党史の見直し問題との関連で、藤井氏がとくに力点をおいているのは、トロツキー再評価の問題である。この点については、もともと学術論文として書かれた補論「詭弁と詭計はいかにして勝利したか」は、トロツキーの『十月の教訓』問題を扱った、緻密な力作である。スターリンに依拠して、トロツキーを「レーニン主義の敵」ときめつけてきた人々の、学術的、反論を期待したいものである。

評者●江原 昭善(京都大学教授)

小原 秀雄著

### 『絶滅——人類の「自己」選択』



TBSブリタニカ 1300円(税込み)

### 理性の変革が人類延命のキーを握る

人間が「自然界の一員でありながら、その在り方はきわめて特殊である」ということは、すでに一九世紀

おほら ひでお 一九二七年生まれ。国立科学博物館動物学部助手を経て現在、女子栄養大学教授。国際自然保護連合・保護委員会副委員長などもつとめる。

の中ごろからいわれられていた。しかしそのとらえ方は、人間が他の動物たちと比べて、いかにすぐれているかというものだった。現在では、人間を特別扱いせず、